

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：県産材流通対策費

事業名 木材産業等高度化推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 県産材流通課 資源活用係 電話番号：058-272-1111 (内 3014)

E-mail：c11545@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 600,064 千円 (前年度予算額：600,064 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	600,064	0	0	0	0	0	600,000	0	64
要求額	600,064	0	0	0	0	0	600,000	0	64
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

昭和54年の制度創設以降、資金需要の増加に伴い6金融機関を約定金融機関に指定して、県内の林業・木材産業者に低金利で資金の貸付を行っている。

金融機関のプロパー資金が低金利で推移していることから、本事業との利率の格差がなくなったこと、木材価格の低迷による業界全体の景況悪化により、ここ数年、本資金の需要は横ばい傾向である。

(2) 事業内容

- ・岐阜県林業木材産業高度化資金の運用

県から約定金融機関に資金原資を預託して、約定金融機関が4倍、3倍又は2倍額の貸付枠を設け、林業・木材業者等に対して、低利で事業資金の貸し付けを行う。

資金原資400,000千円のうち200,000千円については、法令に基づき独立行政法人農林漁業信用基金から借り入れる。

(3) 県負担・補助率の考え方

林業・木材産業の経営の安定化は県の経済・雇用対策であり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
貸付金（預託金）	400,000	銀行貸付
償還金	200,000	基金償還
償還利子	64	基金償還
合計	600,064	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

(2) 後年度の財政負担

(3) 事業主体及びその妥当性

事業評価調書（県単独補助金除く）

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 木材供給の円滑化を図るために必要な資金を低金利で融通し、林業・木材産業者の木材の生産及び流通の合理化を推進し、木材関連産業及び林業の健全な発展を促す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
①						%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

林業・木材産業者への低金利の資金の貸付のため、個別の指標はない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	6金融機関に資金の預託を行い、また、林業・木材業者とは合理化計画の認定を行い、資金の貸付枠内で貸付を行った。 令和3年3月末現在、資金枠 1,281,250 千円に対して、合理化計画の認定額は、767,000 千円、貸付金額は 370,965 千円となっている。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	林業・木材産業の経営の安定化のために必要な事業である。
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	指標はないが、林業・木材産業の経営の安定化が図られている。
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 1	他に同じような事業はなく、効率的に行われている。

(今後の課題)

金融機関のプロパー資金が低金利で推移していることから、本事業との利率の格差がなくなったこと、木材価格の低迷による業界全体の景況悪化により、ここ数年、本資金の需要は横ばい傾向である。

(次年度の方向性)

新たな資金の創設や市場金利の上昇があった場合には、推進資金の優位性から、新規の需要の発生も考えられるため、既認定事業体の資金需要を確保しつつ、新規の需要に耐えられるよう、本資金の貸付枠も今後も確保することが必要と考えている。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	【〇〇課】
--	-------